

大学合格実績
(2018年春)

東京大学 **13**名
(現役10名)

国公立大学 **83**名
(含 防衛医科大学校) (現役56名)

医学部医学科 **49**名
(現役24名)

早稲田・慶應 **206**名
(現役177名)

現役進学率 **64.0**%

現役合格率 **77.7**%

他山の石以^もって
玉を攻^{みが}くべし

学校長から

A Message from the Principal

校祖の精神と校訓を活かした
学校づくりに取り組んでいます。



学校長
積田 孝一
Tsumita Koichi

1950年6月、千葉県出身。1975年3月、東京農工大学農学部卒業。1977年3月、東京農工大学大学院農学研究科修了。1978年3月、東京農工大学大学院農学研究科研究生修了。1978年4月より、攻玉社中学高等学校教諭(理科・生物)。中学校教頭、副校長を経て、2018年4月より校長に就任。日本生物教育会副会長、東京都教育功労者(2013年)。

攻玉社中学校・高等学校は、校祖近藤真琴先生(1831～1886)が1863年に四谷坂町の鳥羽藩下屋敷で創めた私塾を起源としています。近藤先生は50年先の日本を支える人材の育成に志を立て、「和魂漢洋才」を唱え、後進の教育に心血を注いできました。150年を越えた現在でも近藤先生の精神は脈々と受け継がれています。さらに、この先50年を見据え有能な人材を育てるべく、校訓の「誠意・礼讓・質実剛健」を携え、生徒達と歩み続けていきます。人間は一人では生きられません。社会とのかかわりや助け合いが必要です。自分の良心に従い、相手の気持ちや立場なども考え、誠実に対応できる力としての「誠意」、相手に信頼され好感をもって受け入れられるよう、礼儀をわきまえた対応としての「礼讓」、この二つは、共助により、社会生活をしていく上で最も大切なことです。飾りけがなく、自身の能力や役割を理解し、やるべきことを決める強き心としての「質実剛健」、こちらも社会生活をしていく上で必要なことです。

学校生活では、中学1年の静岡県掛川での校外オリエンテーション(2泊3日)、長野県志賀高原での林間学校(3泊4日)、中学2年の山梨県西湖での水辺の学校(3泊4日)、中学3年の長野県北志賀でのスキー学校(3泊4日)、高校1年の鳥羽・飛鳥・奈良・京都への修学旅行(4泊5日)、これらの宿泊行事を通して、協調性、思いやり、譲り合いなど社会生活に大切な心構えを身につけてほしいと考えています。本校の学園祭である輝玉祭、中高それぞれの体育大会では、学年を越えたつながりを通して、グループ活動の成果をも体験してもらいたいところです。失敗しても同じ失敗を繰り返さない、粘り強くあきらめない気持ちなど、どの段階で判断したらよいのか迷うところです。しかし、それは、日々何度も判断を繰り返すことによって必ず養われます。世の中の様々な出来事には「良いこと」も「悪いこと」も混在しています。それらを選り分けられる感性が大切です。バランス感覚が問われます。それでも、百年河清を待つことなく、進取の気概を発揮して、独創的に生きてほしいと願っています。

まじめで、たくましく、少々のことではへこたれない人間を、目指してほしいと思います。

創立者 ^{こんどう まこと}**近藤真琴**先生
(1831～1886)

本校の創立者である近藤真琴先生は、福沢諭吉・新島襄・中村正直らと並ぶ明治六大教育者のひとり。幕末の動乱期にいち早く時勢を見抜いてオランダ語を学び、西洋近代の学問や技術に熟達。日本で最初のかな書き辞書「ことばのその」や、翻訳SF小説の第1号「新未来記」は先生の手になるもので、学者としての幅広い活躍の一端がうかがわれます。

